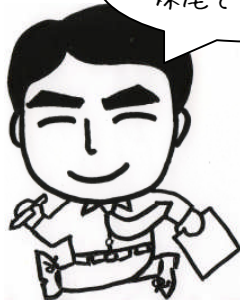


こんにちは
妹尾です



法務ページ・かわら版

発行◆せのお社会保険労務士・行政書士事務所 岡山県井原市岩倉町 1081-1 TEL 0866.63.3213

平成 24 年(2012 年) 7 月 1 日発行

【七夕は、元は布を織る機(はた)のことで、その機に、
棚がついていたので「棚機(たなばた)」と呼んだ】



平成 24 年
第 51 号

こんにちは。いよいよ本格的な夏到来となりました。

皮下脂肪の多い私にとっては、さらに「厚い」、いえ「暑い」季節になるなあ、今から心配している社会保険労務士・行政書士事務所の妹尾悟です。

●天然ウオーターライダー、府中市「三郎の滝」へ行って来ました

ニュースレターのネタ探しも兼ねて、どこかいいところがないかな〜と思い、知り合いの人に聞いたら「滝すべりができる『三郎の滝』がいいよ」と聞いたので、珍しいことが大好きな私たち家族は早速、行って来ました。

この滝には下から順番に「一郎、二郎、三郎」と名前がついていて、滝すべりができるのは三男坊の「三郎」。

駐車場に車を止めて、下からあがっていくと、まずは落ち着いた感じのある長男坊「一郎の滝」が、続いて、間にはさまれ堅実な次男坊「二郎の滝」。

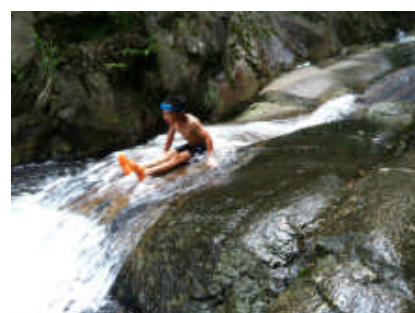
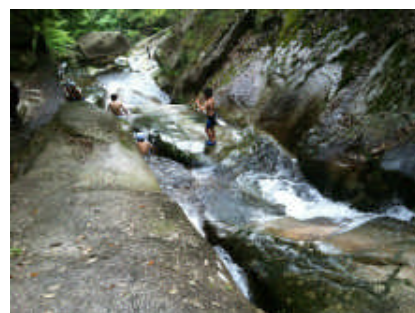
そして、最後が自由奔放、ウオーターライダーができる三男坊の「三郎の滝」がありました。

上から見ると、こんな感じで、ココを滑ります。→→→→→

先に来ていた子どもたちの真似をして、早速、我が家の「斬りこみ隊長」次男坊が挑戦。スピードが出るので、スリル満点。(次男坊曰く、お尻が少し痛い)この日は、水に入ると少し寒かったようですが、これから夏本番に向けて「三郎の滝」はおススメのスポットですね。(文・妹尾 悟)



●最初に見えるのが「一郎の滝」。このうえではマス釣りができます。



●ここを滑れば、「ワイルドだぜえ〜」

お問い合わせは 0866-63-3213 まで



受付時間●日祝以外、午前 9 時～午後 6 時 FAX050-1188-2050 (FAXは 24 時間受付)

知っておくと得する！
法律知っ得

「若い世代はエンディングノートに何を書くか」

★東日本大震災のあと、世代を超えて書く人が増えているエンディングノート。高齢の方だけ書くイメージが強いですが、もう少し若い世代が書く場合、どのようなことに注意すればよいでしょうか。

●そもそも、エンディングノートとは

今、密かなブームとなっている「エンディングノート」ですが、東日本大震災のあと、世代を超えて書く人が増えているそうです。

エンディングノートの始まりは、「遺言書の下書き」であったと言われていました。遺言書を書くとなると、少し身構えてしましますが、「下書き」であれば気軽に考えることもできます。

そこから発展して、現在は遺言（相続）についてだけでなく、葬儀、延命治療など人生のエンディングについて、自分史、家族へのメッセージを書きます。

法律上、これを書かなければならないというものはありませんが、大きくわけて「もしものとき」と「これからのこと」を書くように、私はお勧めしています。

●何から書けばよいか

市販のエンディングノートを買うと、項目とページの多さに圧倒されて、何から書いてよいか迷う方もいらっしゃると思います。

基本的に何から書いていってもよいのですが、まず、「もしものとき、どうしてほしいか？」から書いていかれるとよいでしょうと、私はアドバイスしております。

人はいつ何時、どのような状況になるかわかりません。自分に何かあったときのことを想像して、残された家族に何をしてほしいかを書いておきます。葬儀、延命治療、財産、形見はどのようにしてほしいか、経営者の方であれば事業承継、仕事の引きつきなどが考えられます。

●自分史で「これからのこと」を考える

私はエンディングノートセミナーのときは、いつも「自分史」を書くことから始めていただいています。

まず、自分について考えることが、エンディングノートにおける「もしものとき」と「これからのこと」を考える基本になると思っているからです。

よくセミナーに来られた方からのご感想で、「まさかエンディングノートセミナーに来て、自分史を書くとは思わなかった」という言葉をいただくことがあります。

エンディングノートは、人生の本当のエンディングだけに焦点をあてるのではなく、「限りある命を精いっぱい生きるにはどうするか？」を考えるきっかけとなるものです。まず自分の人生を見つめ、これからのことを考えることが、自分らしい生き方に近くなるのではないかと思います。

遺言書はどちらかというと、残された人のために書くイメージが強いのですが、エンディングノートは「自分のため」に書いていただきたいと思います。

せのじむこと妹尾悟の独立開業物語 ～Vol.20～ 「プロとは」

事務所で修行（就職）したことがない私は、実務については、自分で考えながら、いろいろな方に尋ねたり、ときに教えていただき業務のやり方を覚えてきました。

あるとき、同じ士業の方といっしょに仕事をする機会に恵まれました。

まだ、新人であった私はその方のテキパキとしたやりとりや、最小限のお客さんへの負担（書類の準備など）など、その対応にプロを感じました。

プロとは、当たり前前が当たり前前、しかも毎回できるのです。

このときの印象が強烈に残っている私は、いつかあなりたいと思いながら、仕事をしてきました。まだまだ、至らないところだらけですが、日々精進あるのみです。

つづく



●ホームページは「せのお事務所」で検索してください。すぐに見つかりますよ！！

ホームページ <http://www.senojimu.net/>